

‘ 0 κόσμος, αλλοίωσις. 0 βίος, υπόληψις.’

26号 1991.2.19

文・編集・発行

恋 怪子

LIVE: ティラノザウルス 1991.2.15 渋谷ラ・マ

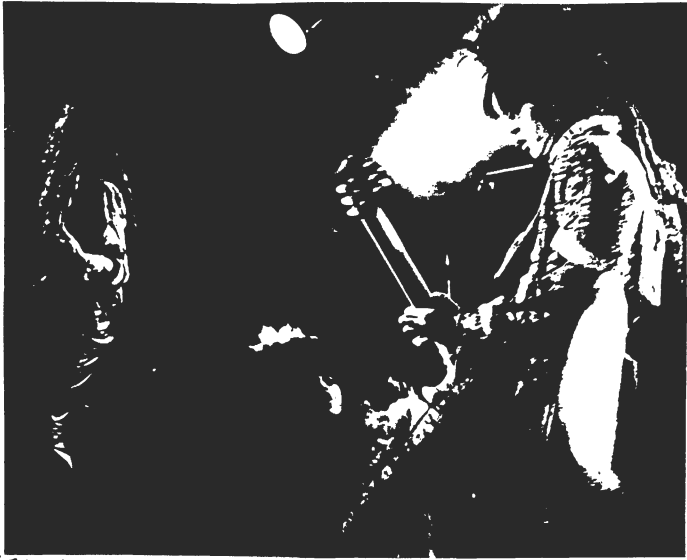


PHOTO BY MOKU

「思うようにならないことがいっぱいあるけどさ…。イヤンなることがいっぱいあるけどさ…。全部解決することがあるんだよ。きっと。足りないものが見つかるんじゃないか。全部が最高のバランスになるときがあるんだよ…。そう感ずるときがあるんだよ」

「つけあがるんじゃないか。バカヤロー。つけあがるんじゃないか。俺がかかりに言ってやろう。テメエなんかまともな目玉にしてるわけじゃないか。つけあがるんじゃないか。いいかい。今日もたっぷり受けとってやるけどな。全部すてちまうぜ。ほんとはいいの。おぼろげなやつだけだぜ。あとは全部すてちまうぜ。「ありがとう」にっこり笑って舌を出してやるぜ。」

「舌を出せ」

あふれ出す言葉を書きとめるパンを盗まれて
7千のパンを持つ男のところにやっていき
ヘイミスター、そいつを俺に貸してくれよ
そしたら そいつが俺に「死ぬ」って
オーベイビイ いらだちも全部はますてて
この恋のためだけ君に歌おう
オーベイビイ 一つだって俺をボロボロに
傷つけていいのは君のキスだけ

骨ぬきにされたまま気づいてるのか、ヘイボーイ
またバカな誰かの入れ知恵ならば、ソーリー
年に入れたカードもながめては、オーノー
年に入れた何かがかちかちしている
オーベイビイ いらだちも全部はますてて
この恋のためだけ君に歌おう
オーベイビイ 一つだって俺をボロボロに
傷つけていいのは君のキスだけ

したたかなスーツの男たちが今夜ここへ
俺たちを値踏みするだけのために今夜ここへ
守れない糸束の数だけここへ積みあげて
むかつきといらつきで俺をしめあげる
オーベイビイ いらだちも全部はますてて
この恋のためだけ君に歌おう
オーベイビイ 一つだって俺をボロボロに
傷つけていいのは君のキスだけ



気がついたら殺られていた。この日のティラノザウルス。私には致死量を超えたものだった。感動なんてやわなもの殺されて、私はつたつたままポーンと音楽を見ていただけだった。

「父親上でピアノは踊る」のときにヴォーカルの人がいったことは、ほんとうだ。足りないものはなかった。最高のバランスだった。ライブ終了のアナウンスが流れても帰る人がほとんどいなかった。もう一曲「GET IT ON」をきいてやっと帰る気になれたんだと思う。みんな。外は激しい雨になっていた。

LIVE: ティラノザウルス 1991.2.11 市川G10

この日は5バンドで、私は3番目から見た。ティラノザウルスは一番最後だった。ティラノザウルスがはじめた。ステージのすぐ前で10人くらいの女の子たちが立って踊っている(しかも、ほとんどの方が椅子にすわっている。ライブハウスの中がすいていと、どくらへんにいたらいいて結構むずかしい。だからほじまてしばらくは、おちつかないことが多い。それにすいていとステージの存在感に圧倒されてしまいがちで、それもおちつかなくとも増してしまう。演奏の力でそれがすぐになくなることもあるけど…。この日はほじまてしばらくの間はゆるゆると大きくくりとで、俺んが探り合いをしているみたいな感じだった。たけとやっぱりティラノザウルス。ドラム、ソロのあとにはギンギンになって「ダンシング・ママ」、「舌を出せ」、「COCK-SUCKER BLUES」と一気に!!! アンコールの2曲目「GET IT ON」はものすごくいい。いつもきくと感じかちがって、音がブサブサつきまわってきて×4×4×4×4ワイルド! キーボードもものすごくいいし、もうちょっとで「でたらめ」になっちゃいそうなの「GET IT ON」だった。サイコー!!!

VIDEO: 「ロンドンブーツナイト」

TOUR: 「ロンドンブーツナイト」



グラム&グリッターロック
オムニバスビデオ「ロンドンブーツナイト」
発売音記念ツアー

3月2日(土)吉祥寺パウスシアター
ゲスト: すかんぢ

4月7日(日)名古屋 E.L.L. 2.25 ON SALE 052 (201) 5004 ナヨヨ!

4月8日(月)大阪 アムホール 06 (916) 971
ゲスト: Jeppers Peppers 1971

出演: ティラノザウルス, DOLLS, THE YELLOW MONKEY, HARLEM JOKERS, MAGIC CARPET RIDE

BOOK: 「涙と聖者」 E.M. シオラン (紀伊國屋書店)

「徹底的な思考は、ただ音楽のなかにのみ存在する」、「私たちに決定的な回答を与えるのは、ただ音楽だけである」
——と書きまされるほどシオランは音楽をきいた。

そして、
「もし生が実在するものだったら、誰が生に耐えらるであろうか。鬼気や恐怖の入りまじった夢であればこそ、私たちはそれに屈するのである」
——と書きまされるほどシオランは音楽のなかに生きた。

そして、
「孤独な人間の義務とは、さらに孤独になるように努めることだ」
——と書きまされるほどシオランは孤独を言説した人なのだ。

LIVE: ジャンキーモンキー 1991.2.1 新宿JAM

ライブ予定
3/1 LAY WAYS
3/2 新宿 JAM 1:00PM
3/4 JAM
4/2 JAM
4曲入り
カセット !!

ギターがとりわけよかった。ギターをききながら、その弾きさまを見ていて、音楽っていったいどこで生まれるんだろう? 「この音はいったい何が出てきているんだろう?」と考えさせられた。ギターが弾いて、それが機械を通してスピーカーから聞こえてくる…。そういうしくみはわかっているんだけど、それだけじゃなくとも思われるのだ。そういうギター音にからまるヴォーカルをきいていると、男が生きたらあは死ぬだけなんだな、子どもを産まないで死んでいくんだな、産む可能性すら生み出されないんだな。だから男はこんなふうになんかかを生み出そうとするのかな? って思いがわきあがってきた。
だから男の孤独と女の孤独はちがう。男の生と女の生もちがう。

MORE ティラノザウルス: 萩原伸太郎氏は「詩人の生涯」には成長がない。詩人はただ時々に変化する」と書いているがティラノザウルスにも同じことがいえると思う。ますます「変化」を感じる。色とりどりの羽毛をフワフワさせながら「舌を出せ」を歌うって、なかなか言葉力があつたね。